

第1章 サイト視聴ランキング

ブロードバンド系サイトの動向

ブロードバンドで視聴時間は2倍以上に 本格的ブロードバンド時代に向けてコンテンツ整備も進む

視聴行動に大きな変化は見られず

この1年でブロードバンドの普及が大きく進み、ブロードバンドユーザーの占める比率は2割となった（2002年3月、家庭からの接続）。ブロードバンドの特徴は高速、広帯域、定額料金であるが、利用時間の増加に最もインパクトを与えるのが、定額料金だ。「常時接続」という言葉は、正確には「通信料金が変わらないために常時接続が可能状態」を指す。実際、ブロードバンド利用者の視聴時間の伸びは大きく、ナローバンド利用者と比較して2倍以上であった（資料2-1-5）。

ブロードバンド普及により市場開拓が期待されるのは、メッセージなど常時接続型のコミュニケーションツールよりも、むしろ音声・動画のストリーミングやダウンロードなど、いわゆるブロードバンドコンテンツ分野だ。しかしユーザーの立場からすれば、PCの環境がブロードバンドに変わったからといって、急に動画を見るようになったり、ニュースや音楽を「ながら視聴」するようになるとは考えにくい。生活習慣や嗜好性はそう変わるものではないからだ。実際、ブロードバンド普及により視聴時間は増えても、人気サイトなどの視聴行動にはさして変化は見られない。ユーザーもコンテンツ提供側も、ブロードバンド時代のまだほんの入口に立っているにすぎないのである。

マップで読む各サイトの対応状況

とはいえ、コンテンツ提供側でも、敏

資料2-1-5 ブロードバンド利用者とナローバンド利用者の視聴行動

	ブロードバンド利用者	ナローバンド利用者
推定利用者数	489万人	1787万人
1人あたりページビュー	2232PV	799PV
1人あたり利用時間	19時間20分	8時間34分
1人あたり訪問(ビジット)回数	31.8回	16.5回

(注) 2002年2月、家庭からのアクセス 出所 Nielsen//NetRatingsの調査を元に作成

感なサイトからブロードバンド対応が進んでいるのは事実である。それらの代表として音楽系・ラジオ系のサイトについて、ブロードバンド化の進み具合という視点から資料2-1-6のようにマッピングしてみた。もちろん各サイトは全面的にブロードバンドサイトというわけではなく、一部に対応コンテンツを持っているにすぎないが、ストリーミングや曲のダウンロードなど、来る本格的ブロードバンド時代のコンテンツに最も近いと判断した（逆にテレビ局サイトなどは番組プロモーションが主機能と判断して取り上げていない）。

マッピングは「常時接続化」と「広帯域化」を縦軸・横軸として行った。「広帯域化」軸は帯域幅128k以上のブロードバンド接続のトラフィックが占める率（2002年3月、訪問回数ベース）を、「常時接続化」軸は平均滞在時間の増加率（3月度対前年比）を示し、両軸の交点は全サイトの平均値を示している。

TFM（FM東京）は48%と広帯域化が進んでおり、平均滞在時間もこの1年で82%増加して常時接続型になってきた。ラジオ局らしくストリーミング番組を持っているのが特徴だ。一方JOQR（文化放送）は、広帯域化は57%と進んだものの、利用時間はあまり変わっていない。

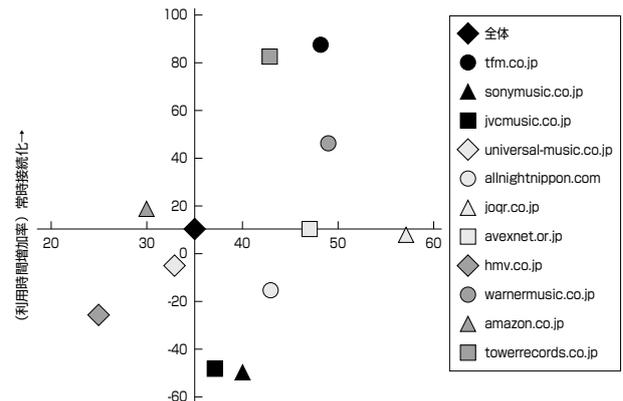
HMVは有料ダウンロードも行っているが、あくまでCD、DVDなど、AVソフトのパッケージ販売がメインであるため、ユーザーはブロードバンドに偏らない。参考までに書籍やCD、DVD小売り大手のアマゾンもポジショニングしてみた。「電子小売りサイトは扱ひ商品がマルチメディア型であっても、ブロードバンド化しにくい」という傾向が見られることがわかる。

一方、注目すべきは第1象限に位置するワーナーミュージックのようなタイプだ。Flashを多用した擬似MTV的な世界にストリーミングがうまく挿入されており、ブロードバンド型でありつつ、情報量と多様性で飽きさせない常時接続型サイトへ進化し始めている。

常時接続だからといって、PCをつけばなしにしておく人ばかりでないのは、同じく常時接続メディアであるテレビの平均視聴時間が1日3時間ほどしかないことから明らかだ。ブロードバンド化により、インターネットがテレビのような「ながら視聴」可能なメディアになるのか、あるいはまったく新しい装置に変貌するのか、今後の動きを見守りたい。

(須藤修司 ネットレイティングス株式会社)

資料2-1-6 主なブロードバンド系サイトの状況



(ブロードバンド接続比率) 広帯域化→ 出所 Nielsen//NetRatingsの調査を元に作成



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp